

ここにしかない地域らしさが在来作物の魅力―江頭宏昌山大教授が講演



来作物は山形県179種類、うち庄内地方88種類、うち鶴岡市60種類を数えると言います。在来作物の魅力は3つあって、

渡前地区総合研修会が11日、同地区地域活動センターで開かれ、

山形大学農学部教授の江頭宏昌（えがしらひろあき）教授が、『鶴岡の在来作物と郷土食・食文化について』と題して講演しました。

江頭氏は、山形在来作物研究会を2003年に立ち上げ、その会長です。

県内の調査では、在

①地域の作物と文化の多様性、
②地域らしさ（個性）を見つける材料、
③人と社会、教育、産業、地域づくりなどのつながり、

特にここにしかないもの〓地域らしさこそ魅力と言います。

鶴岡市が2014年12月、ユネスコ食文化創造都市に認定された3つの理由、

①出羽三山信仰の精

江頭氏は、この3番目に在来作物があったことに驚き、感銘したと述べました。

なぜ人々は、お金にもならない、手間のかかる在来作物を継承してきたのか、聞き取りの結果、次の4点だったと述べました。

①おいしいから。子どものころから食べて慣れ親しんできた味だから。自分、家族の自家用に。

②日ごろお世話になっている親戚や知り合いにお福分けすると、喜んでもらえるから。

③家宝として先祖代々伝わってきた種子を、自分の代でなくすのは申し訳ないから。

④地域の年中行事や郷土食、季節を味わう食に欠かせないから。

「笹巻」の調査

今年1月19日に、文化庁の審議会が、庄内の「笹巻」を、国の無形民俗文化財に登録するよう文科省に答申したことが、大きなニュ

ふるさと賛歌 24

八色木薬師堂にある文化財③

百万遍



廻ってきた時は、深く手を合わせて拝む。百万遍は繰り返し回数はいけれども、30分位は行っていたと思う。

晴天続きの場合は、雨乞い正月を願い出るのである。

力石



朝日嶽が持ってきた力石（境内）

阿弥陀仏の名号「ナムマイダブツ、ナムアイムダーブツ」と百万回唱えること。多くの俗僧が集まって、一つの大きな数珠を繰り廻しつつ、みんなで念仏を唱える法会である。

村の若衆は、雨続きなどで農作業が容易でない日は、村の親方（町内会長）に、代表して臨時休業の一斉休みの願に行く。

早朝、許可を得れば、村の小走りが大声で「露気（つゆけ）正月でござんゾー」と触れ廻る。村の若衆は、薬師堂に集まり、輪になって大数珠を廻し、ナンマイダンブツと唱える。

数珠つなぎの中に大きな玉が何カ所かにあって、この珠が自分

性たちが大量につくり、きな粉と糖蜜も一緒に3月、被災地に贈った歴史もありました。

江頭氏は2003年当時、旧藤島町のエコタウン事業で、在来作物の調査に関わりがありました。

渡前地区の説明会 藤島に義務教育学校

「藤島地域教育振興会議最終報告書等に関する渡前地区説明会」が11日、開催されました。

教育委員会の説明の後、参加者から意見が出されました。

中荒俣のN氏は、「提言を受けた教育委員会が説明するのではなく、提言した人が説明すべきではないか」と求め、振興会議の近藤直志会長が説明しました。

近藤氏は、「早期に中学校改築には異論がなかった。子どもの減少で、渡前小では2人しか入学者がなく、この



藤島地域ならではの学校づくり（義務教育学校の場合）

- 概要：1人の校長の下、1つの教職員組織が置かれ9年間の系統性を確保した教育課程が編成・実践される
- 児童生徒数：約500人（1年生～9年生）※R10年度の児童生徒数を基準に試算
- 学級数：想定15学級（小学校相当：9学級 中学校相当：6学級）※
- 延床面積約：11,000～12,000㎡（文科省算定基準、現在の藤島中の2倍）※

ままで教育効果があがるかと議論した結果だ。40年経過した藤小の改築は、市内で7番目になるので、30年近くかかる。70年持つか。それでいいか」と述べました。

学校改築は、単純に1校4年ずつ順次進めるわけではなく、老朽度に応じて改築するのが通常の行政です。

東渡前のO氏は、「現在の小学生と中学生、教職員からどれだけ意見を拾ったのか。鶴岡型というなら、学校支援員の増員など独自のものがあるべきだ」と質しました。

今野学校教育課長は、「基本計画策定のための意見は聞いていなかった。これからどのようにしていくかは当然検討していく」と答えました。

上荒俣のO氏は「人口減少にあり、義務教育学校は鶴岡市で初めてで魅力的だ。問題があれば解決していけばいい。いろいろな意見を聞くと遅くなるので早く決定して欲しい」と述べました。

東田川史跡物語

県民の経済対応―厳しい負担

青山 崇

巡幸の対応は順調に進行しているようだった。ところがその費用が問題であった。

政府は、天皇の乗る輿や馬車の置場・馬廐舎や門番が詰める小屋の建築費などは官費支給であったが、多額の費用が掛かる行在所や小休所などの新築、修繕費は地域負担であった。

大半田のS氏は、「若い人だけ集めて説明会をすべきだ」と求めました。

近藤氏は「校舎がつながる一体型が、小中一貫教育の効果があるというのが私の持論だ」と述べました。

研究者の調査では、小中一貫校にネガティブな生徒が多いこと、小学校から中学校へ進学する発達の意味が大きいこと、子どもは学校だけで育つのではなく、小学校区の地域の教育力が大切、と指摘されています。

学校の主体である小中学生や、現場の管理職でない教職員から、一度も意見を聞かずに進めていることに、危うさがあります。

東田川郡は、『駐蹕之碑』の文面に、郡民が計7600円を徐々に集めて資金をつくり、小休所となる郡役所を作ったとお褒めに預かっている。

山形新聞の記事によると、東村山郡は4500、6000円の費用は、地価10円につき1銭、1戸につき2銭を

取立てているとのことだが、少なくとも不満が聞かれたという。

当時と現在の物価比は1対1〜2万とされている。一番低い1万として、東田川郡役所の費用は7億6千万円となる。県内の村負担の史料は管見では見当たらないので、同年に巡幸した北海道（現札幌市）の村々でみると、月寒村112円である。

明治4年に岩手県人44戸144名が入職した。10年後の巡幸時の戸数と同じとすれば、



増産拒めば罰金！

9日の山新の2面にビックリな記事を見た。見出しが「農家に増産を指示 拒んだ場合罰金も」となっていた。食料危機時の対策として、2月の下旬に国会に出される法案の概要が分かったんだと。

▲この冬は雪がなく、水の状況がどんな一年になるのか、作付けを心配する声があるというのに、多分そんな心配をする事もないと思われる人たちが考えている事なんだろうが。

▲詳しい内容は不明だが、コメ、小麦、大豆などが不足する食料危機時に政府が供給目標を設定。農家に増産計画の届け出を指示できるとし、従わない場合は20万円以下の罰金を科す。と出ていた。時折しも、減反の配分が生産組合から通知されている時なんだぜ。

一戸の寄付は2円50銭ほどになる。豊平村103円・白石村90円・上白石村52円・平岸村は47円と村は巡幸寄付金を拠出している。これらの村々が巡幸の最北であった。



（東村山郡役所と郡会議事堂）

▲どここの部署が担当にしろ、農水省として自己矛盾はないんだろうか。併せて、食糧危機時ってどんな時なんだい。現在・食料自給率は普通に37%とか言われている。これをもっと上げると口にしながら、新しい予算にはその金が見込まれていないと言っていたじゃないの？でたらめだ。デタラメだ。自民党政治はデタラメだ。

▲戦時中を思い出させる事も盛り込んであると。それは、農家、出荷・販売業者、輸入業者に対し、政府が立ち入り検査できる規定も盛り込まれていたト。拒めば20万円以下の罰金でなく、こっちは過料とあったね。

▲今は新しい戦前というから、そんな心配も80年前、戦地に送る米がないからと、農家の蔵を検査。役人が飯米をかすめ取っていった歴史がまた？（石川）